

貝リンガル情報

(アコヤガイ・立神浦 赤崎)

R8-19号

測定：2026年9月15日 発行：9月16日

データ提供：(株)ミキモト

問い合わせ先：三重県水産研究所 養殖・環境研究課

TEL 0599-53-0016 FAX 0599-53-2225

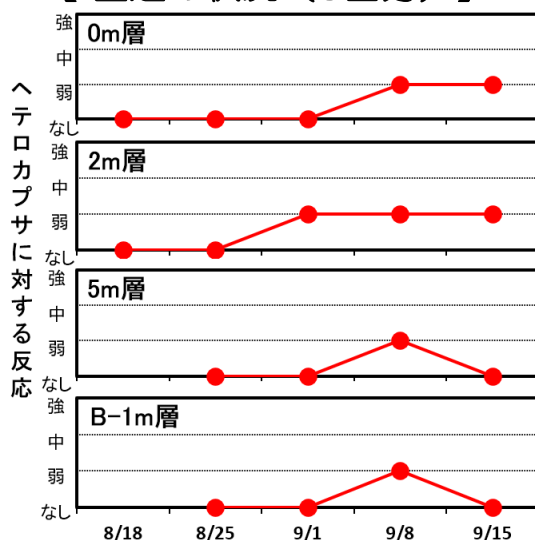
【概況（9月15日 0時～9月16日 0時）】

- Om、2m層でヘテロカプサに対する反応『弱』が確認されました。
- 9月14日の調査で、Om層で27細胞/ml、2m層で9細胞/ml、5m層で9細胞/mlのヘテロカプサが確認されています。

【今回の測定結果】

水深	ヘテロカプサに対する反応 ※	備考
Om	弱	9/9～15にヘテロカプサに対する反応がみられました。
2m	弱	9/9～15にヘテロカプサに対する反応がみられました。
5m	なし	9/9～12、14にヘテロカプサに対する反応がみられました。
B-1m	なし	9/9～12にヘテロカプサに対する反応がみられました。

【直近の状況（5回分）】



※ 指標と殻体運動（波形の例は、WEBに掲載しています。）

強：連続的なスパイク波形と閉殻がみられる。

⇒極度に強いストレスがあり、短時間でへい死の危険がある。

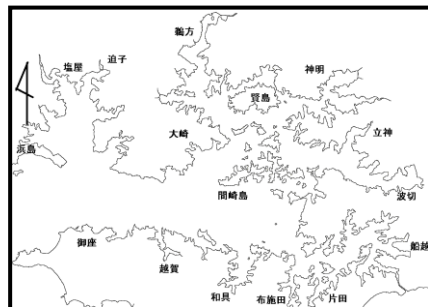
中：連続的なスパイク波形がみられる。

⇒強いストレスがあり、長く続くと衰弱・へい死の危険がある。

弱：スパイク波形の集中が時折みられる。

⇒貝にストレスがかかりはじめる。垂下層の調整や避難の検討を。

なし：応答なし ⇒影響なし。



●本紙について

- ・英虞湾における赤潮被害の軽減を目的とし、(株)ミキモトが開発した貝リンガル（二枚貝を用いた生物センサー）の情報を提供しています。
- ・毎週水曜日に発行します。また、臨時で発行することがあります。

●貝リンガルについて

- ・二枚貝の殻体運動（殻の開閉）をセンサーで測定し、貝の生理状態（赤潮・貧酸素などの影響）を陸上で把握できます。
- ・英虞湾では、有害プランクトンのヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの影響を特に重要視しています。（センサーは、アコヤガイにつけられています。）

●センサーの設置場所と水深

- ・湾奥部（立神浦赤崎）のOm・2・5・B-1m層に設置しています。
- ・B-1mとは海底上1mで、赤崎では約7mです。

●利用上の注意点

- ・海況は、場所・時間・水深で異なります。本情報は湾全体のアコヤガイの生理状態を、必ずしも示すものではありません。
- ・本情報だけでなく「アコヤ養殖環境情報」等で、プランクトンの出現状況や海況を把握し、被害対策をしてください。

